

喜志遺跡

富田林市遺跡調査会報告17

編集・発行 富田林市遺跡調査会

住 所 〒584-8511

富田林市常盤町1番1号

発行年月日 1998年3月31日

調査地 大阪府富田林市喜志町3丁目550-4

調査原因 事務所新築工事に伴う緊急発掘調査

調査主体 富田林市遺跡調査会

調査担当者 田中正利

調査面積 75m²

調査期間 1998年3月3日～3月31日

はじめに（図1）

喜志遺跡は、富田林市の北端部から羽曳野市に広がる縄文時代から中世にかけての遺跡です。この遺跡は古くから二上山で産出されるサヌカイトで作った打製石器などが多く採集されることで知

られています。1970年代から本格的に調査が行われ、これまでの調査で弥生時代の竪穴住居や土器を焼くための土坑、方形周溝墓、甕棺墓の他に、石器を作るときに出て事故品や石屑が大量に廃棄された溝や土坑が見つかっています。このことから喜志遺跡が弥生時代中期の石器製作にかかる集落であることが分かってきました。遺跡の南西にある喜志西遺跡では、弥生時代中期後半の方形周溝墓が見つかっており、喜志遺跡の墓域ではないかと考えられています。

今回の調査は旧国道170号線の東側に面した、喜志遺跡の南端に近い部分を、申請者の福田義春氏

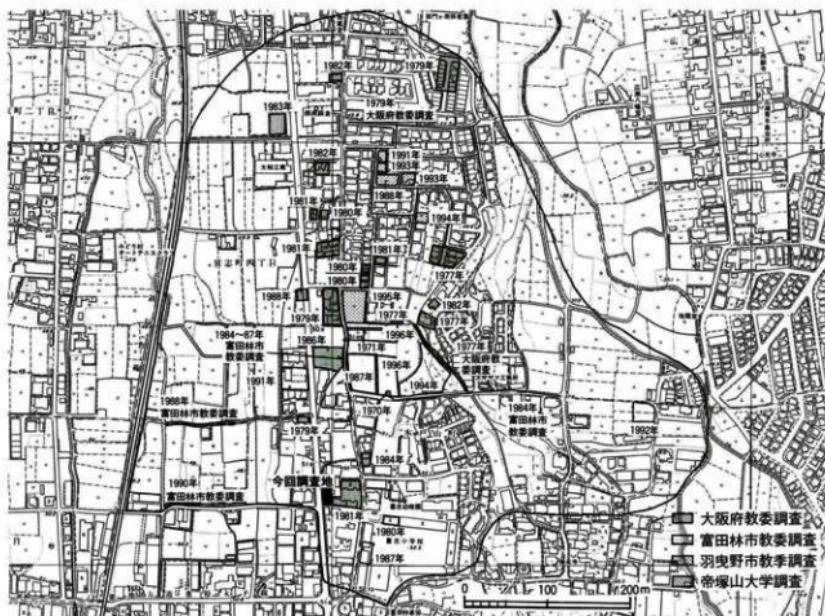


図1 調査地位置図

の協力を得て、建物部分について発掘調査を行いました。

層序（図2）

調査前は耕作地で、表土、耕土、床土の直下で地山となります。遺構はすべて現況から約0.3m下の地山面で見つかりました。

遺構と遺物（図2、図3）

今回の調査では、溝2、落ち込み2、ピット1が見つかりました。

溝1 調査区の中央で見つかった、幅約1.5m、深さ約0.6mの南北溝です。溝は北に行くにつれてやや西へ曲がっています。埋土は第1層・茶灰褐色弱粘質土、第2層・灰褐色粘質土で、第1層からは12世紀後半の瓦器椀の高台（図3-1）が出土しています。

溝2 調査区の中央から南西にかけて広がる、深さ0.2mの深い溝です。溝1に切られており、南へ行くにしたがって南西に広がっています。埋土は3層に分けることができますが、同じ時期に一度に埋められたものと考えられます。この中から弥生土器（図3-2, 3）、打製石剣の事故品（図3-4）、削器（図3-5）とともに6世紀初めの須恵器が出土しています。

落ち込み1 調査区の北東部で見つかった、深さ約0.3mの落ち込みです。底面はほぼ平坦で、南側の肩は落ちが2段になっています。埋土は褐灰黄色弱粘質土で、縄文時代晩期の深鉢、弥生土器、石錐（図3-6, 7）が出土しています。

落ち込み2 調査区の北西部で見つかった、深さ約0.3mの落ち込みで、南側の肩だけ確認できました。溝1に切られており、その形状ははっきり分かりませんでした。埋土は褐灰黄色弱粘質土で、

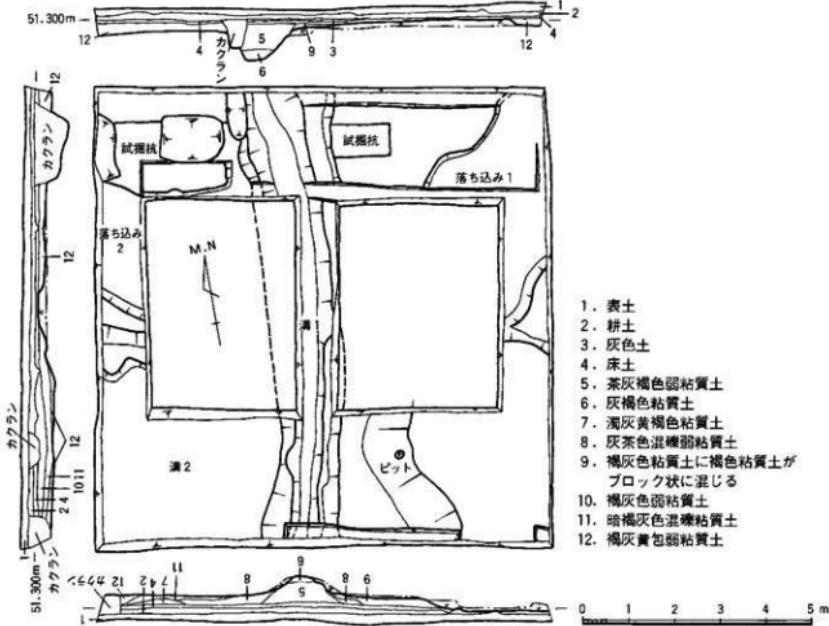
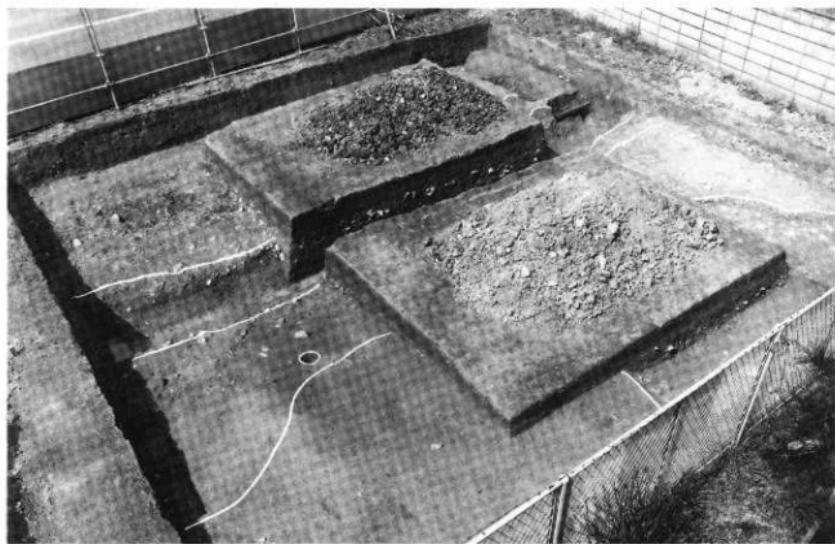


図2 調査区平面図・断面図

1. 表土
2. 耕土
3. 灰色土
4. 床土
5. 茶灰褐色弱粘質土
6. 灰褐色粘質土
7. 濁灰黄褐色粘質土
8. 灰茶色混練弱粘質土
9. 褐灰色粘質土に褐色粘質土がブロック状に混じる
10. 褐灰色弱粘質土
11. 暗褐灰色混練粘質土
12. 褐灰青包弱粘質土



調査区全景写真（南東から）

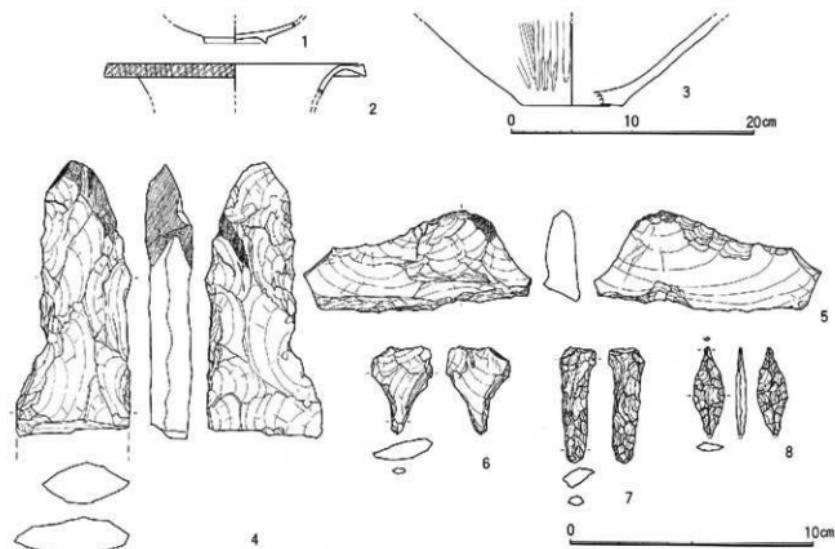


図3 出土遺物

弥生土器と石錐（図3-8）が出土しています。ピット 溝2の東側の肩の近くで見つかった、東西0.40m、南北0.36m、深さ0.07mの楕円形のピットです。埋土は褐灰色弱粘質土で、遺物は出土していません。

まとめ

今回の調査で見つかった遺構は、出土している遺物などから、大きく3つの時期に分けることができます。

最初に弥生時代の遺構と考えられる落ち込み1、落ち込み2があります。この2つの遺構は埋土や深さが同じで、1つの遺構になる可能性があります。また溝2の下で見つかったピットも、遺物は見つかっていませんが、遺構の切り合い関係からこの時期のものと考えられます。

次の時期の遺構としては、溝2があります。この溝の機能が失われる原因是古墳時代後期以降で、その後、溝1が造られています。

溝1は、埋土の堆積状況から水が常に流れていったような形跡はありませんでした。このことからこの溝は水田などに水を引くために一時的に水を流していたのか、もしくは水を流すことを目的としていないものと考えられます。溝1は12世紀後半以降に機能を失い、その後現況のような耕作地になったようです。

周辺の調査を見てみると、調査地の東側にある喜志小学校で1980年に行った富田林市教育委員会の調査では、奈良時代の溝と土坑が見つかっていますが、調査地の東に隣接する地点で1981年に行った大阪府教育委員会の調査では、遺構、遺物は見つかっていません。

今回の調査では、これまで遺構の状況があまり分かっていなかった遺跡の南端部で、弥生時代から中世にかけての遺構が確認することができました。今回の調査の成果は、弥生時代の喜志集落の広がりを考える上での新たな資料になるといえます。

報告書抄録

ふりがな	きしいせき							
書名	喜志遺跡							
副書名	富田林市遺跡調査会報告17							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著書名	田中正利							
編集機関	富田林市遺跡調査会							
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 ☎0721-25-1000							
発行年月日	西暦1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
喜志遺跡	大阪府富田林市 喜志町3丁目 550-4	27214		34° 31' 20"	135° 36' 54"	1998.3.3 1998.3.31	75	倉庫付事務所 建設に伴う緊 急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
喜志遺跡	その他	縄文時代～中世		溝・落ち込み ピット		縄文土器 弥生土器・石器 土師器・瓦器		